

授業科目名	国語表現		担当教員名	長谷川 成樹（実務経験有）	
実施時期	1 年	前 期	単位・時間	1 単位	15 時間
授業の概要と目的	<p>事実や意見、感じたことや考えたことを的確に表現し伝える様々な方法（ことば・書き方・法則（文法）・スピーチ）を紹介する。</p> <p>文章の作成やスピーチを通して、言葉で表現することの重要性を体験する。</p> <p>表現におけるリテラシーを紹介する。</p> <p>本授業を通して</p> <p>① 学習の過程で必要な国語表現の基礎を知る。</p> <p>② 知り得た国語表現の知識を学習活動や自己表現に応用する。</p>				
到達目標	<p>① 事実や意見、感じたことや考えたことを的確に表現する。</p> <p>② 認識の多様性を自己や看護への問いとして応用できる。</p>				
回数	単元	授 業 内 容			
1	国語表現の基礎を知る	ことばを知る			
2		文章の構成			
3		伝える文章（1） 物語			
4		伝える文章（2） 小論文・レポート・手紙・メモ			
5		伝える文章（3） 絵を見て書く／スピーチ（1）			
6		伝える文章（4） 文章を読んで書く／スピーチ（2）			
7		表現と思いやり・倫理／スピーチ（3）			
8	評価（1時間）				
授業形態	講義 演習				
評価方法	レポート（100%）				
テキスト	未定				
参考図書	適時紹介				

授業科目名	論理学		担当教員名	外部講師（実務経験有）	
実施 時期	1 年	後 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的	<p>論理(学)の基本(根本)をわかりやすく解説し、大切な論理(もの)の見方・考え方を楽しく学べるよう指導する。</p> <p>1. 知的(客観的・合理的)な見方・考え方を学ぶ。 2. 論理的な思考力・表現力を養う。 3. 実生活・実人生における“生きた論理力”を身につける</p>				
到達 目標	論理(学)とは何かを学び、その具体的実践を通して、論理的な思考力と表現力を修得する。				
回数	単元	授 業 内 容			
1	「論理」及び論理的な思考と表現	私たちにとって“論理”とは何か？ 純粋論理と「現実の論理」 “生きた論理を活かす”			
2		論理的思考（Ⅰ）論理学の根本原理と基本的な論法 ロゴスの誕生と論理学の流れ（そしてその未来への展望）			
3		論理的思考（Ⅱ）一日々の生活から— 演繹法と帰納法（基本的な論理の組み立て）			
4		論理的思考（Ⅲ）—対話の理論— 弁証法（矛盾と統一、そして自己との対話）			
5		論理的思考（Ⅳ）—発見の理論— 仮説と検証（科学と人間）ロジカル・イノベーション			
6		論理的思考（Ⅴ）—飛躍の理論— 様々な発想法（自由で豊かな発想力をめざして）			
7		論理的思考力をつけるために… 考え方を‘論理的に知る’（さまざまな「知」の技法）“学び”の術			
8		自己と論理 “自己力”と“論理力”（そして“生きる力”） 自己探求から“自己実現”へ《自分の夢を》			
9		論理の実践（演習） 論理的主張 あるいは討論（質疑応答）「なぜ？」と問う			
10		論理的表現力をつけるために… 読む力・書く力・聞く力・話す力 ‘自分自身の言葉で考えて’			
11		見えざる大切な論理問題と“問題解決学” 発見と驚き、そして笑い ‘論理をたのしむ’			
12		論理と心(精神) “脳”力開発について 客観的合理性と心の健康（自己治癒と論理療法）“夢”の論理と“幸せ”の論理			
13		人間社会の論理とコミュニケーション 日本語の論理性と非論理性（明晰さと曖昧さ）			
14		“創造(性)”とは…（人の“自然性”（自然力）に及んで） 主体的かつ創造的に、論理を生き活かし‘論理を超えて’			
15	評価（2時間）				
授業形態	講義				
評価方法	レポート(25%) 筆記試験(75%)				
テキスト	なし（随時、講義内容に合わせてプリントを配布）				
参考図書	村井忠司著『創造の秘密 Homo Creans』新風舎 村井忠司著『創造の源泉 葦牙の如く』桂書房 岩崎武雄著『正しく考えるために』講談社				

授業科目名	情報科学		担当教員名	外部講師（実務経験有） 外部講師（実務経験有） 宮原 謙一郎（理学療法士）	
実施時期	1 年	前期	単位・時間	1 単位	15 時間
授業の概要と目的	<p>「情報」の意味や活用について学ぶ。また、パーソナルコンピュータソフトの操作演習を通して、情報リテラシーとして、文章作成ソフトの活用、表計算ソフトによるデータ処理とグラフ作成、プレゼンテーションソフトの利用方法を学ぶ。また、統計処理の基本について学ぶ。</p> <p>本授業を通して</p> <p>① 基本的なコンピュータ・リテラシーを獲得する。 ② ワードプロ、表計算などのアプリケーションソフトの利用方法を習得する。 ③ コンピュータネットワークを利用する情報検索における基礎的能力を養う。 ④ 統計処理の初歩を習得し、表計算ソフトを活用した分析操作をする能力を養う。</p>				
到達 目標	<p>① パソコンの基本的な機能を理解し操作できる。 ② ワードプロソフトを利用し文書作成ができる。 ③ 表計算ソフトを利用し、簡単な集計、統計処理、グラフの作成ができる。 ④ プレゼンテーションソフトを利用し、プレゼンテーション資料の作成ができる。</p>				
回数	単元	授 業 内 容			担当
1	ICT の 基本	ICT の基本と学習 情報リテラシー インターネット 情報セキュリティ ネットモラルについて			外部講師
2	PC の 基本 操作	タッチタイピング ワードプロソフト(MS Word)の基本			外部講師
3		表計算ソフト(MS Excel)の基本 数式と関数、データの並べ替え、フィルタ機能、ピボットテーブル、 グラフ作成・編集			
4		プレゼンテーションソフト(MS PowerPoint)の基本 MS Word、Excel とPowerPoint の連携			
5	統計 処理 の 基礎	ガイダンス 統計とは 基本統計量 度数分布とヒストグラム、			宮 原
6		代表値と散布度			
7		推測統計 正規分布			
8		まとめ			
9	評価(1時間)				
授業形態	講義 演習				
評価方法	筆記試験 (20%) 実技試験 (30%) レポート (50%)				
テキスト	『新訂版 看護・医療系学生のための情報科学入門』サイオ出版				
参考図書	適宜紹介				

授業科目名	看護物理学		担当教員名	外部講師(実務経験有)	
実施時期	1年	前期	単位・時間	1単位	30時間
授業の概要と目的	力学を中心に、看護実践における動作の基本原理を学ぶ。 本授業を通して ①安全かつ効率的な看護動作を実施するための力学について理解する。				
到達目標	①看護動作の原理について知る。 ②看護動作を安全かつ効果的に実施できる。				
回数	単元	授業内容			
1	物理を学ぶ準備	単位と数値の計算			
2	物体の運動	等速直線運動			
3		等加速度運動			
4		自由落下			
5	力と運動	力と加速度			
6		運動量と力積			
7		運動量保存の法則			
8	力のつりあい	力のつりあい(ベクトル)			
9	力のモーメント	力のモーメント			
10		身体重心			
11	仕事とエネルギー	仕事と仕事率とエネルギー			
12					
13	圧力	力の作用する面積と圧力			
14		浮力			
15		ゼミナールなど、まとめ			
16	評価(2時間)				
授業形態	授業内容に応じて、講義および演習の形態を併用				
評価方法	筆記試験(100%)				
テキスト	『系統看護学講座 基礎分野 物理学』医学書院				
参考図書	適宜紹介				

授業科目名	心理学		担当教員名	外部講師（実務経験有）	
実施時期	1年	前期	単位・時間	1単位	15時間
授業の概要と目的	心理学について基本的な事項、心理学の考え方を学ぶ。 本授業を通して ① 心理学の知識、考え方の理解から、人間の心・行動の理解を深める。 ② 人間理解から自己理解、対象理解の基本的態度を養う。				
到達目標	① 人間の心の働きを理解する。 ② 自己を省察することができる。 ③ 広い視野から自己理解と他者理解する視座と態度を身につける。				
回数	単元	授 業 内 容			
1	人間の心理・行動の原理	心理学の問題 心理学とは 心理学の発展 心理学の研究手法 知覚の心理 知覚の成立 知覚の種類 知覚研究の応用			
2		記憶の心理 記憶の諸相 忘却の心理 記憶の工夫 思考・想像・言語の心理 思考・想像心理 言語の心理			
3		知能の心理と知能検査 学習の心理 学習の心理 練習の心理			
4		感情・情緒・情操の心理 感情の諸相 感情・情緒の異常 適応の心理 人と環境 適応・不適応 適応の機制			
5		集団の心理 集団の形成と機能 集合行動 発達の心理 発達の原理 発達段階の特徴			
6		健康の心理と人間理解 患者行動の理解 ストレス理論			
7		看護職者の心理			
8		バーンアウトとストレス対処			
9		評価（1時間）			
授業形態	講義				
評価方法	筆記試験(100%)				
テキスト	『系統看護学講座 基礎分野 心理学』医学書院				
参考図書	適宜紹介				

授業科目名		教育学		担当教員名	外部講師（実務経験有）	
実施 時期		1 年	前期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の概要と目的		<p>教育の歴史と意義、学校教育の特徴と課題、子どもと大人の関係について学ぶ。</p> <p>本授業を通して</p> <p>① 「教育」について考える。</p> <p>② 一人の社会人および一人の専門的指導者として必要な教育上の知識や技能を習得する。</p>				
到達 目標		<p>① 教育の本質と目標を理解する。</p> <p>② 教育について人間発達論的な視点から考える。</p> <p>③ 看護の現場で教育的な実践ができる。</p>				
回数	単元	授 業 内 容				
1	人間と教育	人間と教育（1）－歴史的・社会的側面 なぜこの世に教育というものが生まれたのかを、歴史的、社会的な側面から学ぶ。				
2		人間と教育（2）－生物学的側面 人間の成長と発達にとって教育がどのような役割を果たすのかを、生物学的な側面から学ぶ。				
3	学校教育の歴史	学校の誕生と展開（1）－西洋古代中世 学校というものがどのようにしてこの世に誕生したのかを、西洋前近代の歴史のなかから探る。				
4		学校の誕生と展開（2）－西洋近代 なぜ子どもは子ども時代を学校で過ごさなければならなくなったのかを、西洋近代の歴史のなかから探る。				
5		学校の誕生と展開（1）－近代前期の日本 明治から第二次世界大戦敗戦までの日本の学校教育の展開を学ぶ。				
6		学校の誕生と展開（2）－近代後期の日本 第二次世界大戦敗戦から1970年代までの日本の学校教育の展開を学ぶ。				
7	教育の方法と評価	教育の方法と評価 子ども理解と教育の方法、教育の評価について学ぶ。 情報リテラシーとICT				
8		教育の方法と評価 子ども理解と教育の方法、教育の評価について学ぶ。				
9	中間試験 第1回から第8回までの範囲についての理解度を確認する。					
10	現代日本と教育改革	現代日本の教育改革（1）－内容と方法 年代半ば以降の教育改革について、内容と方法の面から理解する。				
11		現代日本の教育改革（2）－制度 年代半ば以降の教育改革について、制度の面から理解する。				
12	子どもの権利条約と教育	子どもの権利条約と教育（1） 子どもの権利条約の内容と教育的な意義について理解する。				
13		子どもの権利条約と教育（2） 教育場面での子どもの権利侵害として、いじめ・不登校・体罰を取り上げ、現状と課題を学ぶ。				
14	学校教育から生涯学習へ	学校教育から生涯学習へ 学校教育から生涯学習という考え方への転換がなぜ、どのようにして生じたのか、その背景について学ぶ。 生涯学習の目的、内容、方法、課題について学ぶ。				
15	評価（2時間）					
授業形態		講義				
評価方法		筆記試験(50%)、毎回授業後に提出する講義カード(50%)				
テキスト		田嶋一ほか『やさしい教育原理』（第3版） 有斐閣				
参考図書		特になし（適宜プリント資料を配付）				

授業科目名	家族社会学		担当教員名	外部講師（実務経験有）	
実施 時期	1 年	前 期	単位・時間	1 単 位	30 時 間
授業の 概要と目的	「家族」に関する様々な事象・出来事を通して、家族の概念、構造機能、家族社会が抱える問題を学ぶ。 本授業を通して ① 看護現場での家族看護・家族サポートについて考える。				
到達 目標	① 客観的視座で「家族」を捉える。 ② 看護の理論を援用し、家族看護に応用する。 ③ 本授業で身につけた家族に関する理解を、自身の家族経験や今後の生活に応用する。				
回数	単元	授 業 内 容			
1	社会 とは 社会学	社会と個人、社会の規則性			
2		予言の自己成就			
3	現代 の 家 族 社会	さまざまな家族の形態、核家族化、少子化			
4		晩婚化・非婚化、性別役割分業			
5	社会的 に 不 利 な 立 場 に あ る 人 々 と 家 族	映画『不登校の真実』			
6		家族の動揺と子どもとのやりとり			
7		子どもの居場所の重要性			
8		教育制度と家族の負担			
9		精神障害をめぐる社会の対応の変遷			
10		映画『人生、ここにあり！』			
11		社会のルールと逸脱、病人役割、病気行動			
12		医学モデル、生活モデル、ストレングス・モデル			
13	死 と 家 族	映画『大病人』			
14		死の Awareness 理論 悲嘆のプロセス			
15	評価（2時間）				
授業形態	講義				
評価方法	筆記試験（100%）				
テキスト	なし				
参考図書	適宜紹介				

授業科目名	哲学		担当教員名	外部講師(実務経験有)	
実施時期	1年	前期	単位・時間	1単位	15時間
授業の概要と目的	<p>哲学の本質的なテーマとそのテーマを代表する哲学者の考えを紹介する。 紹介した考えを理解するのみではなく、自己に問いかける。 本授業を通して</p> <p>① 事物をとらえ、考え、行動するための多様な思考を知る。 ② 哲学を通じて自己洞察(生き方・考え方を見つめる)するとともに、人間、社会、文化を理解する力を深める。 ③ 他者との相互理解や共生に向けた思考の在り方を知る。 ④ 看護とは何かを考える基盤とする。</p>				
到達目標	<p>① 自己理解・他者理解、社会、文化の認識の多様性を理解する。 ② 認識の多様性を自己や看護への問いとして応用できる。</p>				
回数	単元	授 業 内 容			
1	哲学と自己洞察	哲学の概要と始まり			
2		カント:理想と現実、認識(理性・感性・悟性)			
3		フロイト/ユング:性・家族・欲求			
4		アドラー:人生・幸せ・欲求			
5		フッサール:認識・信念・現象			
6		ハイデガー:存在・死・実存			
7		メルロポンティエー:身体・知覚			
8	評価(1時間)				
授業形態	講義				
評価方法	レポート(100%)				
テキスト	なし				
参考図書	適時紹介				

授業科目名	倫理学		担当教員名	外部講師（実務経験有）	
実施時期	1年	後期	単位・時間	1単位	30時間
授業の概要と目的	西洋倫理学の成立における基礎理論、義務論、帰結主義、理性主義を紹介する。 本授業を通して ① 現代の多様な場面における倫理について考える。				
到達目標	① 人間実践における事象や現象を倫理的に考える力を身につける。 ② 看護実践において倫理的にふるまうことができる。				
回数	単元	授業内容			
1	現代の多様な倫理	講義の目的・受講上の留意点			
2		道社会規範の多様性と道徳規範			
3		倫理的に考えること：多様な道徳的視点			
4		道徳的議論と懐疑主義：道徳をめぐる現代教育の潮流			
5		帰結主義と功利主義			
6		ベンサム功利主義の理解			
7		カントの義務論の理解			
8		義務論の展開：定言命法			
9		人間の本質と理性：自由主義と理性の目覚め			
10		人間の本質と共同性：共同体論の倫理学			
11		神話的思考と哲学：社会規範の発展			
12		原理的思考の成立：スコレーとアルケー			
13		相対主義の問題：古代民主主義と道徳哲学			
14		「魂の世話」と「心」の発見：ソクラテス裁判とプラトン 西洋倫理学の本質と帰結：徳倫理学の成立			
15	評価（2時間）				
授業形態	講義				
評価方法	レポート（100%）				
テキスト	なし				
参考図書	適宜紹介				

授業科目名		人間関係論		担当教員名	外部講師（実務経験有）	
実施時期		1年	後期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の概要と目的		人間関係の基礎的な考えや方法を学ぶ。 本授業を通して ① 看護援助にとって最もふさわしい人間関係とは何かについて考える能力を養う。				
到達目標		① 人間関係とは何かを考えることができる ② 看護実践における諸問題をとおし、看護援助にとって最も、ふさわしい人間関係とは何かについて考えることができる。				
回数	単元	授業内容				
1	人間関係基礎概論	人間存在と人間関係 人間関係のとらえ方 人間関係の基本的意				
2		看護ケアや社会福祉援助における人間関係のとらえ方				
3		社会的相互作用と社会的役割 社会的相互作用				
4		社会的役割 援助的役割を実現するためのガイドライン				
5		コミュニケーション コミュニケーションの基本概念 コミュニケーションの障害				
6		援助的コミュニケーション カウンセリングの技法 IT 機器の普及に伴う効用と問題点				
7		人間関係の研究と応用 人間関係に関する研究 カウンセリングに関する理論と実践 看護ケア、福祉への応用				
8	看護における人間関係	人間関係の向上へのスキル 体験による学習効果 体験学習の基本姿勢 体験学習の源流 構成的な体験学習 看護教育での体験学習の課題				
9						
10		保健医療チームにおける人間関係 保健医療チームの特質 保健医療チームにおけるチームワークの意義 チームワークを促進する要因と阻害する要因 専門職の協力と連携に向けて				
11		闘病生活を支える人間関係 患者・家族と保健医療従事者 闘病を支える人間関係				
12		家族の人間関係と看護師のかかわり 家族関係論と看護ケアの視点				
13		家族看護の進め方				
14		ソーシャルサポートをめぐる人間関係 ソーシャルサポートとは ソーシャルサポート-ネットワークの活用 ボランティアを活用するための指針				
15		ノーマライゼーションをはぐくむ人間関係 ノーマライゼーションの基本概念 「援助すること」の再考 セルフヘルプ-グループの広がり QOL の向上を目指す制度と援助				
16		評価(2時間)				
授業形態		講義 演習				
評価方法		筆記試験(90%) レポート(10%)				
テキスト		『『系統看護学講座 基礎分野 人間関係論』 医学書院				
参考図書		適宜紹介				

授業科目名	英語 I		担当教員名	外部講師（実務経験有）	
実施時期	1 年	前期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の概要と目的	英語の発音や基本的なフレーズについて学び、英語コミュニケーションの基礎となる力を養う。本授業における英語コミュニケーションのトレーニングを通じて、国際共通語として通じる英語の運用力を養う。				
到達目標	① 国際共通語としての英語の音声の特徴を理解し、簡単な英語表現を聞き取ることができる。 ② 実際の英語コミュニケーションの場面で、コミュニケーションの成立に必要な英語の発音を意識しながら、意思疎通を図ることができる。				
回数	単元	授 業 内 容			
1	英語コミュニケーションの基礎と応用	オリエンテーション、Unit 1: You' re Beautiful			
2		Unit 2: I Want It That Way			
3		Unit 3: The First Time			
4		Unit 4: Complicated			
5		Unit 5: My Heart Will Go On			
6		Unit 6: With You			
7		振り返り① (Week 2-6の習得度確認)			
8		コミュニケーションの実践①			
9		Unit 7: Torn			
10		Unit 8: You Are Not Alone			
11		Unit 9: You Gotta Be			
12		Unit 10: How Crazy Are You?			
13		Unit 12: Desperado			
14		振り返り② (Week 9-13の習得度確認)			
15		コミュニケーションの実践②			
16	試験				
授業形態	講義 演習				
評価方法	筆記試験 (60%) 実技 (40%)				
テキスト	『ポップスでスタート!基礎英語 (Let' s Learn English with Pop Hits!)』, 成美堂				
参考図書	適宜紹介				

授業科目名	英語Ⅱ		担当教員名	外部講師（実務経験有）	
実施時期	2年	前期	単位・時間	1単位	30時間
授業の概要と目的	<p>医療や看護の場面に現れる英語表現に慣れ親しむ。 本授業を通して ① 医療や看護の現場で英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度と基礎的な能力を養う。</p>				
到達目標	<p>① 日本語が話せない患者さんに、受付の段階で英語による簡単なコミュニケーションを図ることができる。 ② 診察や検査等のために、英語で病院の中を案内（説明）することができる。 ③ 診察等の段階で、様々な数値の計測や生活習慣のチェックを行い、患者さんに動作についても指示することができる。</p>				
回数	単元	授 業 内 容			
1	受付と問診①	オリエンテーションおよびUnit 1（受付での質問・患者カードの作成）			
2		Unit 2（症状を尋ねる1）			
3		Unit 3（症状を尋ねる2）			
4		Week 1-3の振り返り（Unit 1-3の復習）			
5		英語コミュニケーションの実際①（Unit 1-3）			
6	病院案内と問診②	Unit 4（院内を案内する）			
7		Unit 5（身長と体重を計測する）			
8		Unit 6（病歴や生活習慣を尋ねる）			
9		Week 6-8の振り返り（Unit 4-6の復習）			
10		英語コミュニケーションの実際②（Unit 4-6）			
11	診察と予約	Unit 7（入院患者に対応する）			
12		Unit 8（診察や検査での英語表現）			
13		Unit 9（時間の英語表現）			
14		Week 11-13の振り返り（Unit 7-9の復習）			
15		英語コミュニケーションの実際③（Unit 7-9）			
16	試験				
授業形態	講義 演習				
評価方法	筆記試験（60%） 実技（40%）				
テキスト	『看護系学生のための実践英語 改訂版』，朝日出版社				
参考図書	適宜紹介				

授業科目名	生活科学		担当教員名	外部講師(管理栄養士) 外部講師(実務経験有)	
実施時期	1年	前期	単位・時間	1単位	30時間
授業の概要と目的	<p>人間の生活に関わる物資や環境と人間との相互作用について学ぶ。 本授業を通して、</p> <p>① 衣・食・住から、人間関係、健康、環境、文化など生活者の視点を基盤に、快適な生活環境の創造・想像を目指す。</p> <p>② 多様化する社会で何を選択するのか、自分がこれからどのように生活したいのかを再確認する。</p>				
到達目標	<p>① 人間の身体機能(生理・運動・知覚)を統合し、生活環境を調整・整備する。</p> <p>② 快適な生活環境を考える。</p> <p>③ 看護実践の現場における療養生活環境を整える。</p>				
回数	単元	授業内容			担当
1	衣の環境	被服の役割 被服材料の種類と特性 被服の管理 衣服と環境問題			外部講師
2	食の環境	健康と栄養素の働き 献立作成			
3		食品の安全性 (食中毒・食品添加物・残留農薬・輸入食品など)			
4		環境と食生活 食品添加物			
5	住の環境	安全で快適な住まいとは 周囲の自然環境・社会環境の重要性 これからの住生活 ・環境との共生 ・人との共生			
6	生活を創る	経済的自立のための消費活動 消費者問題			
7		演習(レポート提出) 身近に起きている問題を新聞・ニュースなどから見つけ、自分の問題として考える			
8		環境と生活 気候 災害 環境破壊			
9		生体リズムと生活リズム			
10		室内環境の調整 室内気候・換気・陽光(照明)・物音・清潔・家具(器具)			
11					
12					
13	食文化と機能美	陶芸(食文化における生活の実践的機能美)			外部講師
14					
15					
16	評価(2時間)				
授業形態	講義 演習				
評価方法	筆記試験(80%) レポート(20%)				
テキスト	未定				
参考図書	適宜紹介				

授業科目名	保健体育		担当教員名	外部講師（実務経験有） 外部講師（実務経験有）
実施時期	1年	前期	単位・時間	1単位 30時間
授業の概要と目的	<p>スポーツの実践を行う。 本授業を通して</p> <p>① 健康の保持増進、疾病予防、健康回復、苦痛緩和を保證する身体活動（スポーツ）の価値を理解する。 ② 挑戦することで「自尊心（自己効力感）」を高め、他者との協働（折り合い）の中で「感情調整」し、他者への「敬意・尊重（思いやり）」を示す。 ③ 「生活の質」を維持し、自分らしい生活を続けるためにスポーツに親しむ態度を身につける。 ④ 心身ともに健康な看護師を目指す。</p>			
到達目標	<p>スポーツ実践を通して、以下の能力の獲得を目指す。</p> <p>① 体力 ② 技能 ③ 心理的スキル（自尊心・自己効力感・感情調整・敬意・尊重・思いやり） ④ スポーツに親しむ態度</p>			
回数	単元	授 業 内 容		担当
1	身体健康と活動	健康の保持促進、疾病予防、健康回復、苦痛緩和を保證する身体活動（スポーツ）の価値		外部講師
2		健康の保持促進、疾病予防、健康回復、苦痛緩和を保證する身体活動（スポーツ）の価値		
3	スポーツに親しむ	ウォーキングの基本		
4		ウォーキング（滑川市内）		
5				
6				
7		バスケットボール		
8				
9				
10		バドミントン		
11				
12				
13		卓球		
14				
15	評価（2時間）			
授業形態	講義 実技			
評価方法	実技(60%) レポート(40%)			
テキスト	随時配布			
参考図書	適宜紹介			